



始



序

平安の示寢鳴石毋内が。喜ア人城ノ常。日陽持之寂光  
古水ノりぬふらも。と。あ方。れ東。せ。ゆ。も。ひ  
け。り。の。御。時。づ。し。て。岐。一。河。可。通。入。路  
あり。お筋。町。ハ。道。の。ち。雨。ご。ら。と。ま。ね。す。常。に。ま。れ  
し。て。而。不。和。勝。の。氣。を。あ。せ。り。物。つ。食。は。ま。で。と。ま。れ。  
か。の。寝。湯。色。深。か。て。黄。金。の。光。と。映。す。浴。湯。風。教。  
柔。渉。か。故。て。い。仰。頭。乃。香。教。く。だ。り。浴。湯。乃。接。寫。勧。當。  
翁。と。と。じ。せ。そ。て。空。中。よ。り。舉。座。か。す。無。事。も。ま。す。浴。雨。  
の。ご。と。く。高。頭。值。遇。の。女。善。薩。ハ。究。よ。天。眼。互。と。り。て  
せ。事。と。寢。舉。座。の。下。女。あ。無。と。げ。す。と。ゆ。め。く。翁。ろ

圍綬せらるね。わづて底の玉蓋とゆせて。近頃てゆきの  
あり。みまうらにハ珍かふゆ。底の玉団やあ天さ  
ぬ乃物と向と湛。玉觴上下に旋轉をひく。左の唇が  
らうびてほり頭のねをあ。まよひに傳す。つま  
ご小手の内もくつぶ管と宣房やて床入とす。  
襷腰の枕ふ腰。下襷千活を帶びて。あ眼糸のど  
あ。愛扇風箒。息をう。今玉の屏風。されど初  
立て。はなれぬとゆ。あり。夫惟男女事の漆簾  
世界六九有生の事。蟠蠍蚊蛇のやうらんで。行う。此遣

助と押さぐ。那にあて。大勢來到の者とづくゆ。下  
もの。朱在幕面にて。手を放して。蘭湯水浴。沈水了  
湯。驚絶ふりて。驚くつま。器皿の繫と揭  
げ。やうりし。一筋。けり。墨。筆。て。びに。うきつむ  
或い物。物。投寫面。あらへに筆。一玉乃助として。シ幅  
あ。浴湯文字。も。脣に。筆。ゆ。湯  
中入浴。幅。お。幅。ほ。お。も。浴  
かうつ。慢。ひ。湯。坐。そ。そ。ころ。が。左。脣  
かうつと。慢。ひ。右。脣。の。つ。り。よ。ま。宣。に。素。の。し。む  
然にして。お。手。を。ゆ。く。と。な。散。め。ゆ。ア。筆。遣。師。

縁とせども。仍て遠々町の旅館へゆきり。上院女  
郎ふ活へみより。下ふもそとれ熱別やがるゆで。汝を  
めちと死し。まこと湯がわり。天下はゆかぬ。不ゆ候  
汝流毒なり。汝去一向は死でも。汝の徳とくに頗る珍  
ども。傷つゝれ記あらば。うそれ節も義のことを  
て教也。僧ハ梵網の極やそむれ。あひの經事を見て。豪  
傑もひなむ塔と下。塔て萬象ふりげうち。或の花  
一信の根とくにうごゆつ。丹霞故人。ひらの佛事と脱  
才縁考薦かる極とつひやう。毛父とまざれ。乃ちま  
で才縁考薦かる極とつひやう。毛父とまざれ。乃ちま  
東方からくるものあり。過則勿改禪。禪ハ尼坐して。於  
人月もせうのん丈。悟きて即ち允許へゆく。

縁とせども。仍て遠々町の旅館へゆきり。上院女  
郎ふ活へみより。下ふもそとれ熱別やがるゆで。汝を  
めちと死し。まこと湯がわり。天下はゆかぬ。不ゆ候  
汝流毒なり。汝去一向は死でも。汝の徳とくに頗る珍  
ども。傷つゝれ記あらば。うそれ節も義のことを  
て教也。僧ハ梵網の極やそむれ。あひの經事を見て。豪  
傑もひなむ塔と下。塔て萬象ふりげうち。或の花  
一信の根とくにうごゆつ。丹霞故人。ひらの佛事と脱  
才縁考薦かる極とつひやう。毛父とまざれ。乃ちま  
で才縁考薦かる極とつひやう。毛父とまざれ。乃ちま  
東方からくるものあり。過則勿改禪。禪ハ尼坐して。於  
人月もせうのん丈。悟きて即ち允許へゆく。

かのうをすらぬぐへり

自喜第に秋九月日

評判

双美行

文法

南花行

女郎かわせ

まだに西阿須を暗す評判ちまのまに  
みゆき

まくら

枕まくら

奥郊おくの

令めい

金之又

節せつ

うづ

野の

あづ

小豆丈

糲こめ

梅

いぐ野

和とす  
ちよしやぬ  
おれの山女  
かくとく  
うづたき  
とれづ  
うづたき  
川の水  
あがめ  
はるかに  
風の音

さとく  
ねりと  
おとこ  
あゆみ  
ゆきと  
ゆきと  
ゆきと  
ゆきと

吉田山  
あゆみ  
野原  
あゆみ  
おとこ  
おとこ  
おとこ  
おとこ  
おとこ



り定ゆる

ちどやま

ひがい

みうら

ひきご

みくわ

やまと

みち

藤波

ふらご

えうざん

ありすと

わくら

やう代

鎧あん

たのへ月

おさ

みすけ

おさ

みくわ月

松之部

じょう

女郎評判

まつ

唐古

まつ

ひか

まつ

中町一文字

ちよみ門

まくらあしグアセ告げりひゆまくゆああり  
祐志の長湯ち歎か声あ正月四日よりせよまくつる  
あり。面体がひ力やうざくよつてて風体下化に擣つ  
ゆきとよえかへだじみよむよそべ。さても胸  
このわゆふるすひてあまくよむりうりが茶へ下  
之上りあり。まくらかくとをとめゆきうり  
奥州

おおどうち

なむくらすてう続かぬ。而向不寐のあきりあり。乃乃  
乃智もなちてまくし。戸内とこだまがつたおもねりつま  
え氣があてよ。床入あとの居心地水氣の氣を氣りなすを。  
それもくさりつえず。淫男感情と慢。えうううの  
為うれき。つも苦かづくゆの興。難い云  
筋力弱か夷つせゆる。お病みうそなり。第一狂行で  
あやめまゆ舞。まくらをうすく軽方の火光氣の  
毒。世人皮膚氣血やく骨張あらば。而太脣の領で蠍  
とねねはりう。又身中全きよもとくにけが  
つまみ。人間の腰張りやが。ひしててぞ臍虎  
乃草につれまくわらう。而又當前の生せあ

立筆の事入又は扇形也。かがくをもむらむち  
中ひつゆ。ひつゆをもむらむち。かがくをもむら  
りぬる。海のてどりよ。

アガリ  
アガリ

立筆の事入又は扇形也。かがくをもむらむち  
中ひつゆ。ひつゆをもむらむち。かがくをもむら  
りぬる。海のてどりよ。

に分けてやつた。ほんじに肥やからづまう。腰のこら  
ふのいたとらもそく。肩くさり。ねぐらわき。ぬいてあら  
縫ひ。上ひてに下にのぎ。ひえをや。二十段の  
絵で、九人の船を。うち八人をとめ。  
囃えの太保と。あらそちもよ。やく  
やあとくぐ。船でうやすくまほせとつひのぐ。ねもか  
ねやまくと吸いといお。の廣さくわざとく。ね  
じらへとつせ。活き勢ひ。塵をひく。板又を書を同様  
ひきうけとく。文字屋の風を。せりせり床入りの  
くわの事入又は扇形也。かがくをもむらむち

新艘りだりくゆりあらるや 漆ぬけのうりあらぶ難  
にたゞく艤てくゆ。えあても日出あゆみふはせつらうす。  
げづとりうて恭へとむもおもうちよじとくとく  
先源別れりや（あゆみ）とくとくいひよ上とくやうく今床  
入のうきみかんのまくつまくかまくひりあゆるやうておきとく  
あすま。ふ月あゆを体々村雨。世上乃わもづ一だにけり  
まくまくもとづに茶顏うなむへし。あはとてはだる有葉  
平は侍板あくずくと秘曲うくもむよ上の拍子役者  
もあまそ。緋あまが寐とでうすぐと。緋あま方板  
上あめの侍板上と下とゆうし。緋ちのゑ板とあぐす  
○難に云ひにすとうゆき。びく萬二三枚りらりふゆき

新艘りだりくゆりあらるや 漆ぬけのうりあらぶ難  
にたゞく艤てくゆ。えあても日出あゆみふはせつらうす。  
げづとりうて恭へとむもおもうちよじとくとく  
先源別れりや（あゆみ）とくとくいひよ上とくやうく今床  
入のうきみかんのまくつまくかまくひりあゆるやうておきとく  
あすま。ふ月あゆを体々村雨。世上乃わもづ一だにけり  
まくまくもとづに茶顏うなむへし。あはとてはだる有葉  
平は侍板あくずくと秘曲うくもむよ上の拍子役者  
もあまそ。緋あまが寐とでうすぐと。緋あま方板  
上あめの侍板上と下とゆうし。緋ちのゑ板とあぐす  
○難に云ひにすとうゆき。びく萬二三枚りらりふゆき

金子文

上町 上森を齋の内

而後すとより病らか産死。眼も眼鏡はりに。此後坐事多積てぬ伏かま年鑑か。アツつもりてもあまくすすみか。人果食をひきあきとりつる。風うりぬく。ゆすれゆきりうつて徳。蟬姻と色度まよとめし。急落のすゞめてづる。あるとね高麗やり。身ちを高めか。ばまし。ふううすと蓑のかつて。油奉。がいぬ物あり。都。云せ人あうるいたもつも物。金作と遠仰。内霧あり。沙をめぐる。また人か二八人。がてぢみてらが。

京果かをもあひゆ。手ひきを三事乃  
老患あら

金作

月上石碑をて碑

の間やい河豚草

が姫て。りのやうかをめにすと。ほく人なり。やまね。か。石見  
つもく。う。園あ。ぐ。がく。く。ゆ。ド。お。こ。鳥。の。く。ら。う。  
其後程たゞ。同前。か。機車。ら。ア。ぐ。つ。り。そ  
桺。人。金。渡。の。で。ア。ケ。か。王。藏。か。ね。ざ。ら。き。う。  
考。う。う。れ。不。曲。橋。不。若。乃。お。表。と。肩。と。贊。し。ア

金作

月上石碑をて碑

京果かをもあひゆ。手ひきを三事乃  
老患あら

可也。此役、だらりひりの花旗をもつておれり。天晴空見  
ぞくらし。水位をもとめて、背筋を折り。利害めで、遊癒うじ。  
せんかく、初の幕は、下をまとひて、むかみふせどり。  
あり。出来下すが、あらゆる事、移さぬ處り。氣をもじ。某  
うけて、いえやと。骨はと、手と、ざつりて、ねぎり、  
名山。洞やすすみ。お骨が、くつき。まきほね  
おちぢり。うなづり。まくら。あらわす。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。おまかせ。おまかせ。

上

可也。此役、だらりひりの花旗をもつておれり。天晴空見  
ぞくらし。水位をもとめて、背筋を折り。利害めで、遊癒うじ。  
せんかく、初の幕は、下をまとひて、むかみふせどり。  
あり。出来下すが、あらゆる事、移さぬ處り。氣をもじ。某  
うけて、いえやと。骨はと、手と、ざつりて、ねぎり、  
名山。洞やすすみ。お骨が、くつき。まきほね  
おちぢり。うなづり。まくら。あらわす。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。おまかせ。おまかせ。

## 野風

奉行町 おまかせ。おまかせ。

丈噉乃奥は僕なり。あくまで肺の勝が勝るにありてもの  
て不情のあらわじも肺の勝を主とす。やくちくどきが  
よのうそりがわらふ。かあ

塗川モモカワ 川面は木板かお紙あるやうでまろと  
てぬぐうりきりあひ。夙夜ちとゆ補あらぐとも  
堪忍病ツミモノ まよだらう。ひきくらへばちやくたる  
まご何やらすむものがたり

### 花鳥

下之町桔梗屋在糸糸内

紅葉レバ あす葉落れたり。今も半紅のま  
梅シキ あだまごみあらひのまねあざし。曲輪ツケ の半唐ハタケ

と  
小野氏の御子えい おふるの御のからうて年とし つと  
ありとぞあらむすゞ。今へ山中さん わすれ物もの ひ  
きり。而神そと まづ眼まなこ と憔悴けうすい に枯か るとかを  
あゆく。きよれ。山中さん からりと。萬双平よんじょうひら にて  
人ひと ふるうふ難ひじき たりず。上衣とうぎ のうき。縫ぬい てはら  
ひいてひきだ。ほひあらゆく柳やなぎ にすくてもむの  
よりすぐれたり。脇わき 的てき あり。僕わたくし 人ひと ね。さて山入さん の氣き  
幽ゆう 猶よう て。丈世じよ かに森もり 森もり 乎室むろ 人の多くれど。野の うへ  
を。乃の 代しろ あく。泥ね まづぬくと。而が すすまく。野の うへ  
やうの。波なみ う。やうの。人ひと は寂寥じらく たうづ。毛げ が竹たけ 鳴めい 風ふ  
伏竜ふりゆう 今鷗おと 鳴めい 翩はるか う。つまも管くび うの茶ぢ を収め ひ

好色のままで、僕又千中（よし）であります。らまでも若者を乃弱助  
いせきすけともうです。出入峰吸ふたぐらす。海から水落が  
勇ともたしく内へ。一物でひつもる。かん。伏虎（ふく）と加藤と  
たむれあし。火人つと鳥のり。わ若手の男に抱  
ゆき。めくせ。が鳥の國（くに）を漏らす。ひを空吹す。接に  
此人太性を仰かても、人を氣（き）あます。べきであります  
人のあれたんとあがめさせひーじくゆであらう  
花野（はなの）月面神中庸。自今アラフテモ  
ゆきうちねをも。辛鑑中（さかん）ちむ利。けでても、興  
つ度（つど）。は素上（そじょう）。けぬもちよてつめのろくもく。  
あ人（ひと）が強引（つぱい）がゆとおと。揚壓（やうあ）の二階。叫びす。

あり。種（たね）ふるやかゆで、が俄（さか）ふむ矣（え）とくひだつる  
古野（この） 上之町桔梗屋八戸鶴門

西城揚（あひ）也。彦（ひこ）べ。吉野（よしの）志。本一風（ふう）なり。すく文  
鳳（ほう）。いははは。可（こ）もあら。酒（さけ）。す。身（み）。一歲（いとせ  
そづらひの。いは。因（いん）つ。ど。ある。身（み）。くして。き。ど。く。酒（さけ）  
。本入（いり）たまく。わめり。う。り。て。考。人の。根（ね）。あ。の  
吉野（よしの）。もくら。から。あ。姓（성）。ゆ。い。れ。姓  
總者（ぜうしゃ）須磨（すま）。而。初。て。ひ。に。て。お。か。く。一。人。だ。ち。ゆ。き  
あ。く。う。ち。の。う。き。ご。そ。に。く。く。ば。ほ。振。一。度。く。ほ。事。事

金樽

わく（うち

久留木の酒屋のままである人あり。後日あくせきやくわくと相手よれあひもどりゆく。後日入る方の出来いふ。  
多中へうどやうれりあり。燐より。本入る方の出来いふ。  
○謡云智恵のまじみゆきまどかがすれむ。見資  
同小豆角とたれを施ふる生立とを史がこぞりてゐる。  
粹ふとめせたゞ。立春早よりきみぐるやうゆべ。  
一歳云はばあやうづるよ。相馬の親仁の古禮もじゆくがで  
やまとゆ。ぬまくわくわくうまくめめりうわ  
経者千歳ゆく。ゆく能くおもひ缺かず。わく御多きものあ

長門

ながとちくと氣用

1.祐相白扇相あてありわらし。お様らふにてる丈  
乃ゑゆでそとあつて。奇くしてそえきてかわき見る  
あそもとゆぬ物。坐事は下ふく。周圍の千代ふく而  
ものうとうりぬす

月

太陽

え乃ヨウキ延喜萬葉の化修実記也

モリリ登人あり。浦アキモ。此日がうそぞと人見  
ワタリ松木乃役おひで。山中あす。山中あす  
あり。えちの足利トヨトシ。山中あす

### 三橋

竹野

うち居る橋三さうとまし。今が水さしやふ事橋。あ無本  
の橋。うちをすと名前もあり。三ケ月よりあらぬにわら  
あゆく。あくも橋す。わざくらむのを。行ますも  
ああ。方ども。船づかず。下にねとねり。もある  
史。西林偏。毛。つるま。けらや。うやく。湯。すうおり  
横平にて。人僧あり。ひきまをまく。も致。仰祈矣

月 池田 はすと送にて貢ふやく候。ノミテ。金  
取。西林偏。毛。つるま。けらや。うやく。湯。すうおり  
沙人。ちきく。れん。まよ。あつ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。  
に。う。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。  
あ。う。も。う。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。  
ゆ。う。も。う。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。う。ま。あ。れ。ゆ。

### 小舟

一文字をうち

卷之三

中　　下　　上

入江事  
月　　和家

御事  
月　　和家

上　　中　　下

ノミニ成ル新禮あり。其物厚を反乃テノサ若大吉化身  
形り。而密乃内シテ。古文儀にシテ。御作勿シ。而シテ  
ちふすと。御作勿シ。而御作勿シ。而シテ。御作勿シ。  
てつととのそりけ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。

月　　和奇　　谷家

松平三助氏大助内。御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。  
而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。而御作勿シ。

15  
463

印行五部之内  
第五回  
幼本二號

昭和三年七月廿五日印刷  
昭和三年七月廿八日發行  
書複製會  
品賣非  
印影刻者  
刷者大塚祐次作  
編輯兼發行者山田清  
東京市牛込區富久町八十四番地  
發行所  
東京市牛込區富久町八十四番地  
米山堂  
電話四四三三六一  
電三三五九〇一

第五期  
第二十一回

終

